

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和3年10月18日
枚方市立津田南小学校

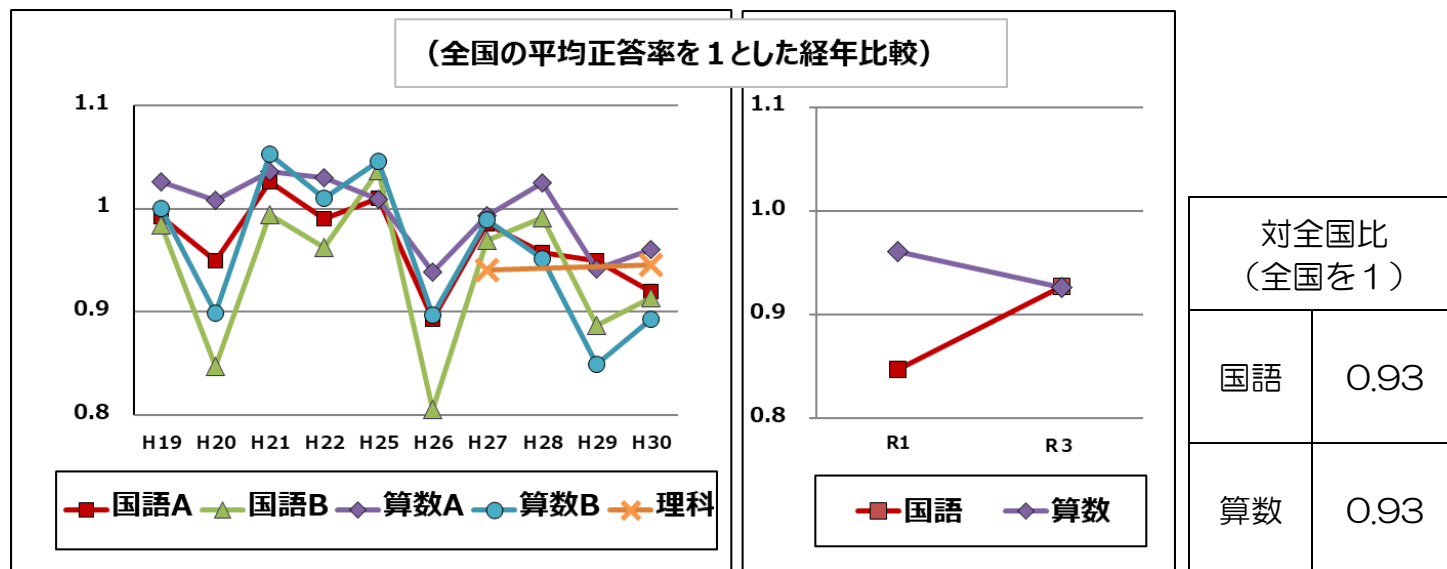
文部科学省が今年5月に実施した、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

【全体概要】

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較(対全国比)をお知らせします。
(※令和元年度より、A・B問題が一体化されましたので、グラフを分けています。)



<学力調査結果の概要>

○国語について

→対全国比の1と比べると本校は、0.93という結果になった。令和元年の国語の0.85という結果を考えると上昇したことになる。文章の構成を捉える問題や漢字の書き問題については、全国平均に並ぶ正答率であるが、主語や修飾語などの言葉の問題での正答率は低く、無回答率はどの問題でも高いという結果が出た。言葉の学習について、復習をしていく必要がある。

○算数について

→対全国比の1と比べると本校は0.93という結果になった。令和元年度の算数0.96という結果を考えるとやや低下したことになる。図形の面積の求め方、データの利用、割り算の理解に課題があることが分かった。

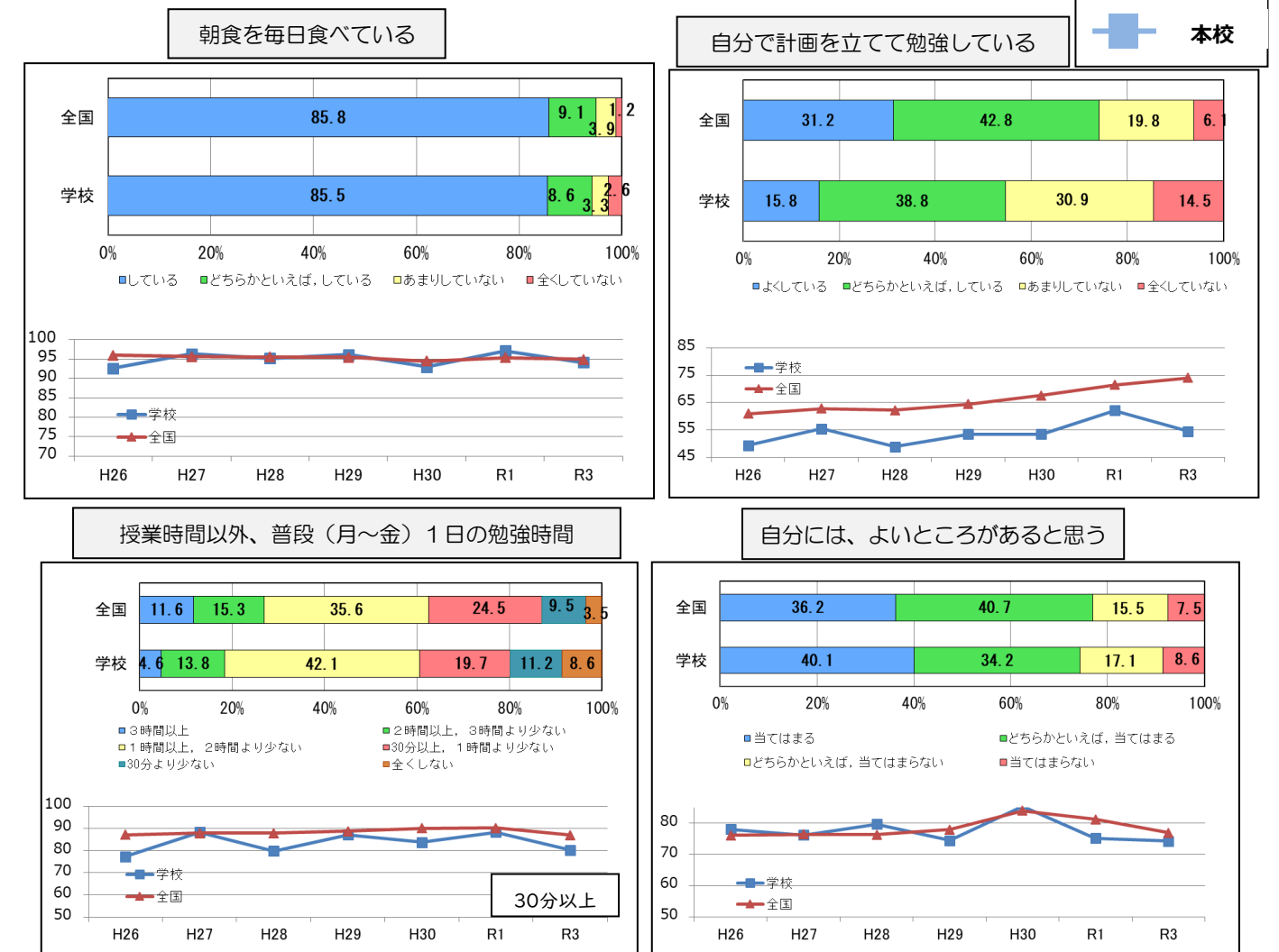
※本調査は、平成19年度から実施されています。

※平成23年度・令和2年度は中止、平成24年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。



<質問紙調査結果の概要>

○生活習慣について→毎朝朝食を食べているという項目について、毎年安定して9割を超える児童が肯定的な回答をしている。朝食はその日の調子を整える大事な役割を果たしているため、これからも続けてほしい。
○学習について→自分で計画を立てて学習をしている項目は約5割の児童が肯定的な回答をしている。全国平均の7割と比べると、大きく下回っていることが分かる。学習時間についても30分より少ない児童が全国に比べると多い。目標を作り、計画を立てて学習を進めるための学校・家庭での双方の大人の支援が必要である。

まとめ

○学力学習調査から、国語は思考・判断・表現に関する力に課題があることが分かった。本文の要点を素早く読み取る読解力、自分の考えを書く表現力などの向上を目指した授業を展開していく必要がある。算数は、知識・技能に関する基礎的な問題に課題があった。知識・技能をただ暗記するのではなく公式に至るまでの過程を実体験をもって理解させておく必要を感じた。
○質問紙調査の結果では、生活習慣に関して規則正しく送ろうと意識していることが分かった。自ら学習に向かう姿勢を育てていくために、学習しやすい環境づくりや学校・家庭での双方の大人からの声掛けが重要になってくると考えられる。

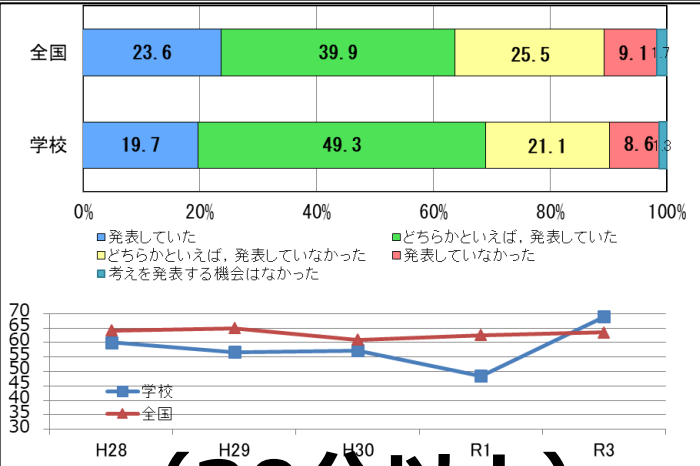
※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

質問紙に関する調査

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

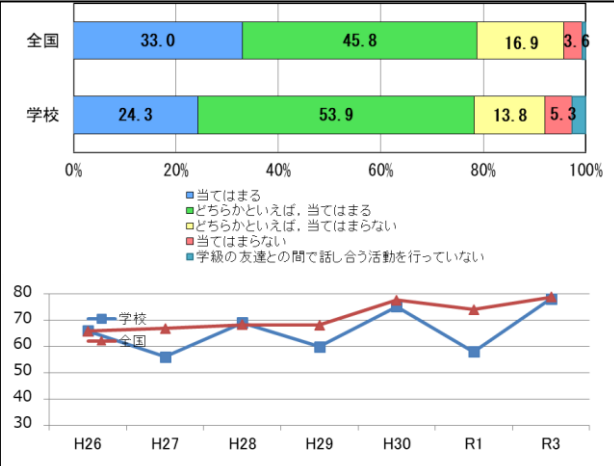
【成果のあった項目】

授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。

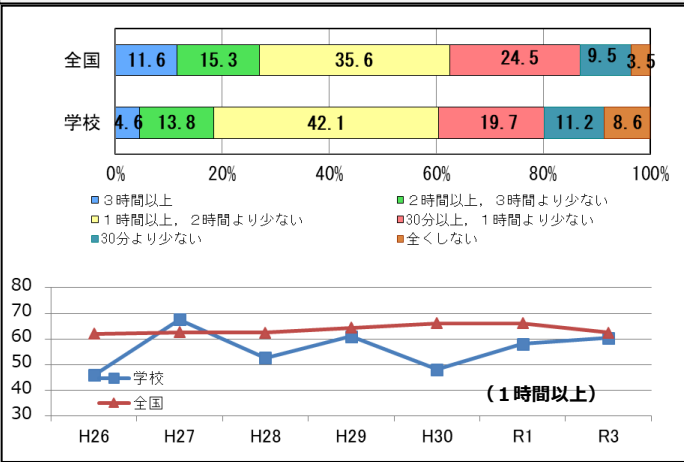


(30分以上)

学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか



(1時間以上)

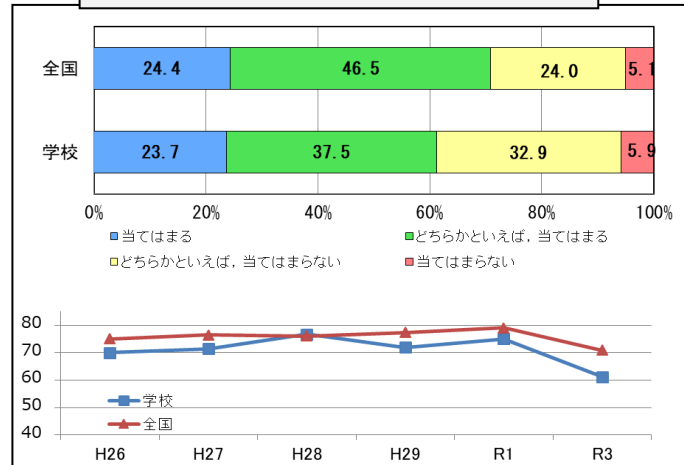
【考察】

「自分の考えが上手く伝わるように、工夫して発表しているか」「話し合い活動を通じて、自分の考えを深められているか」という項目での数値を見ると、本校で取り組んできた「子どもたちが話したい、聞きたいと思う授業づくり」の成果が出てきていることが分かる。相手の話を聞くことの大切さをすべての授業を通して子どもたちが感じられるようにしていきたい。

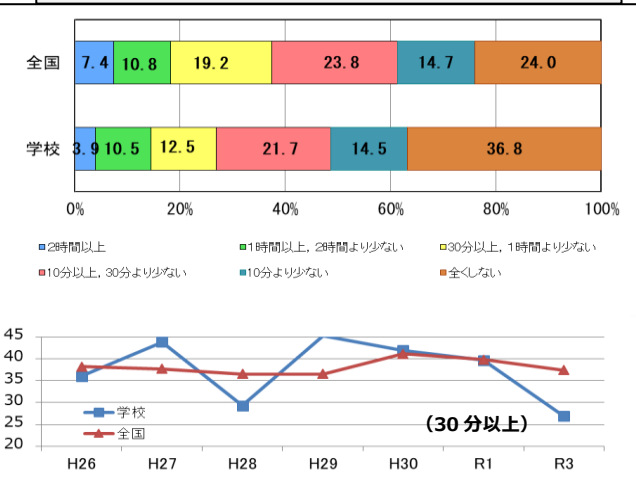
学習時間について、1時間以上している児童が少しずつ多くなってきている。2時間以上している児童は少ないものの、全体的に学習習慣が身についている児童が多いことが分かった。

【課題が残った項目】

難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している

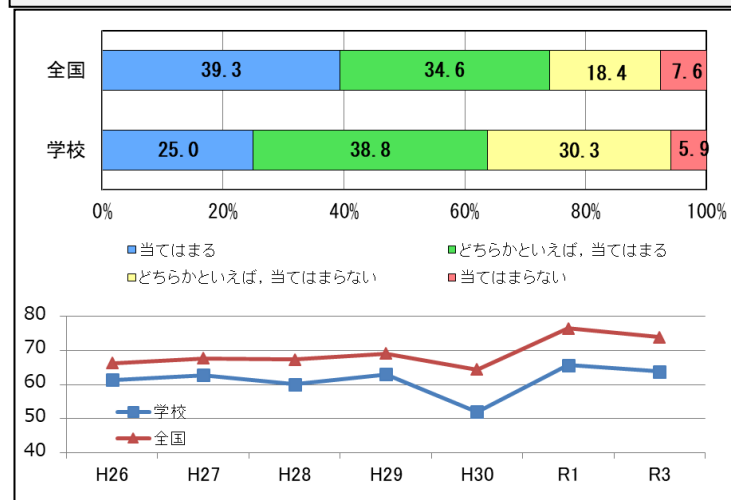


学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか



(30分以上)

算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える



【考察】

「難しいことでも、挑戦している」という項目では、否定的な回答をしている児童が4割弱であった。学習だけではなく、行事などでも積極的に動いたり、恐れずに挑戦したりする児童を学校全体で育てていくために、大人からの声掛けや環境づくりが必要である。

「算数の授業で学習したことを普段の生活で活用できないか考える」という項目では、毎年全国より下回るということが続いている。教科書にある、「いかしてみよう」などにもしっかりと取り組むことが大切である。また、算数だけでなく他の教科でも、普段の生活と結び付けて考えていかなければいけない。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

国語の調査で分かったように、「話す」「聞く」では、「子どもたちが話したい、聞きたいと思う授業づくり」の成果が出てきていることが分かった。授業改善として、国語の「自分の考えを主張する文章を書く」という項目で課題があったように、理由を説明する力や表現する力などの「書く力」を養っていく必要がある。理由を明確にし、事実や考えと分けて考えることができるように指導していく。

算数では、基本的な問題に課題があるものがあつた。学習した公式や考えに形式的に数値を当てはめていくだけでは、根本的に理解することができない。公式や考え方に至るまでの思考を大切に授業展開をしていく必要がある。

また、タブレット等を使ったICT機器を柔軟に取り入れ利用しながら、より子ども達同士が協働できる授業づくりを心がける。

(2) 学習規律について

学校生活は全て授業時間で成り立っている。その授業は、子どもと子ども、教師と子どもの人間関係づくりの上に成り立っている。そして、それを支えているのが「学習規律」である。今後も、学校全体で学習規律が系統的に引き継がれるようにする。

(3) 家庭学習について

家庭学習の時間は、全体としては学習習慣が身につけてきている児童が多いことが分かった一方で、30分以下の児童の割合も多いことが分かった。学習時間について二極化していると言える。「計画的に学習する力」「自主的に学習する姿勢」などの大切さを児童に伝えながら、より一層の定着を図っていききたい。